

報告とお知らせ

全国ホタル研究会第24回大会の報告

全国ホタル研究会第24回大会が1991年6月14～16日に横須賀市で開催されました。全国各地から多くの方々が参加し、以下の日程で、熱心に討論や情報交換なされるとともに、親睦を深め、実りある大会となりましたこと、開催地を代表して皆様のご協力に感謝いたします。

- 14日（金） 受付・ホタル観察
- 13：00—15：00 受付・横須賀市自然博物館展示解説
特に世界で唯一の発光生物の展示を見学して頂きました。
- 18：00—20：00 博物館付属の馬堀自然教育園において自然水路に近いホタル水路の再生を現地をご案内しました。当日は天候にも恵まれ、ゲンジボタル（東日本型）ヘイケボタルも発生し、また珍しい発光キノコも参加者の皆様を歓迎してくれました。観察後に宿泊先ホテル（ケープシャトウ）に戻りました。
- 21：30—22：30 自由集会が開かれ大森正男会員を座長として、水生ホタル（ゲンジボタルとヘイケボタル）について熱心に討議と情報交換がなされました。
- 15日（土） 大会・総会・懇親会
- 9：30 圓谷事務局長の開会の辞
村上会長挨拶
環境庁自然保護局企画調整課 高橋室長挨拶
富野逗子市長挨拶
池田横須賀市教育長挨拶
事務局連絡



横須賀市自然博物館「発光生物」展示説明



馬堀自然教育園学習棟にて羽根田博士挨拶

研究発表・総会が横須賀市自然博物館講座室を会場に開催されました。研究発表の内容と発表者

は以下のとおりです。

研究発表（午前）

- 10：00－10：15 ホタルの里を21世紀に遺そう……………山岡 誠（福岡県）
- 10：15－10：30 馬堀自然教育園ホタル生息実験水路－人工的再生から半自然水路へ ……………
……………水系環境を考える会（横須賀市）
- 10：30－10：45 農業とホタル……………宮下 衛（環境庁国立環境研究所）
- 10：45－11：00 伊豆半島におけるゲンジボタルの明滅間隔について《西伊豆地方を主とした調査報告》 ……………大竹和男（沼津市）
- 11：00－11：15 1991年滋賀県の「ホタルダス調査」より……………遊磨正秀（滋賀県）
- 11：15－11：30 2年目幼虫の羽化雌雄比について……………村上美佐男（鳥取市）
- 11：30－11：35 休 憩
- 11：35－11：50 市街地に発生するヒメボタルの生態と生息環境…森豊彦・永井正身(環境科学㈱)
- 昼 休
- 11：55－13：00

研究発表（午後）

- 13：00－13：15 ゲンジボタル地域集団における遺伝的変異……………
佐藤安志・藤山静雄（松本市）・鈴木浩文（つくば市）・大場信義（横須賀市）
- 13：15－13：30 ヒメボタル二型の遺伝的分化……………
鈴木浩文（つくば市）・佐藤安志・藤山静男（松本市）・大場信義（横須賀市）
- 13：30－13：45 卵を外敵から保護する新種のホタル……………大場信義（横須賀市）
- 13：45－14：00 熊本県旭志村での水・陸生ホタルの生態……………小林 修（熊本県）
- 特別講演 本会設立にご尽力され、世界の発光生物学の第1人者である本会名誉顧問の羽根田弥太博士から世界の珍しいホタルについてユーモアを交えて大変興味深いご講演を頂きました。
- 14：00－14：50 私がみた世界が変わったホタル……………羽根田弥太（逗子市）
- 14：50－15：00 休 憩

総 会

15：00－16：00 横須賀市人文博物館講座室で総会が開催されました。

(1)議長として関谷寛隆会員が選出されました。

(2)事業ならびに会計報告が報告され、承認されました。



第24回大会会場（横須賀市自然博物館）風景

(3)次年度の開催地は長崎市に決定されました。

(4)その他

閉 会

懇親会

18：00－20：00 懇親会はケープ・シャトウを会場として、開催地側の挨拶、横須賀ホテルの会の亀井公会長のご挨拶がありました。その後、楽しいホテル談義に時間を忘れ、親睦を深めました。最後に次年開催地の長崎市を代表して富工妙子会員からご挨拶がありました。

自由集会

21：00－22：00 自由参加で前夜に引き続いて陸生ホテルについての後藤好正会員が座長となり、情報交換と討議がなされました。これまで本会はゲンジボタルに重点がおかれ過ぎていましたが、自然環境の重要な指標になりうる陸生ホテルに注目されはじめたのは、ホテル研究会としても心強く思いました。

16日（日） ホテル生息地現地見学

野外のゲンジボタル生息地の現地見学が希望者を対象に実施されました。当日は天候に恵まれ、多くの会員がマイクロバス2台ほかに便乗し、三浦半島では稀にみるゲンジボタルの自然生息地（横須賀市野比）や都市河川の再生実験を行っている岩戸川を午前中に見学しました。岩戸川では横須賀ほたるの会の柳井茂松氏にご案内頂いた後、逗子市久木川を観察しました。逗子市役所の職員による久木川整備計画（ホテルの里づくり）について、図面を示されながら、具体的に説明頂きました。13：00、JR逗子駅で散会し、長崎市での再会を楽しみに全ての日程を終了しました。

横須賀市の事情により、会場と宿泊先が離れ、色々ご不便をお掛けし、また至らぬことも多かったかと思いますが、開催地の関係者一同、可能な限りの努力を致しましたことに免じて頂きたいと思います。特にこの大会開催に当たっては、横須賀ほたるの会、神奈川自然研究会、水系環境を考える会の会員の方々に全面的なご協力を頂きました。また環境庁、神奈川県、逗子市は本大会の開催を支えてくださいました。また現地見学には逗子市より多大なご援助を頂きました。記して以上の各位に厚く御礼申し上げます。

大会雑感

全国ホテル研究会は今年で24回を迎え、この会を支えられてきた先達者のご努力と熱意に改めて敬意を表したいと思います。

個人会員から構成されていた会も今や、250名の会員に増え、また構成も地方自治体、企業、自然保全などの団体会員が増加し、もはや会の運営は個人のボランティア活動の域を越えて、会体制にも変革が迫られてきています。さらにホテルを通してきちんとした自然保護のありかたを

志向することが社会的にも要望されてきています。飼育技術の改良だけでなく、ホタルを通し、真に自然環境の保全を全国各地の会員の方々が展開されるならば、その波及力は大きなものになると思います。またホタル研究会である以上、ゲンジボタルだけでなく、森の環境指標ともいえる陸生ホタルにも注目し、自然保護の視点が広がるが必要と思います。毎年ホタルが発生するような環境を保護するためには、現存するホタルの自然生息地を最優先で保全することが望めます。さらに、ホタルだけを保護するという視点では長い将来に渡ってホタルを保護することにつながらないと思います。ホタルを含む生物全体が生息できる環境を可能な限り損ねないように、後世に伝えることこそホタル研究会の目標ではないかと思います。また会活動を常に活性化するためには、運営の仕方や活動の目標などについて会員が自由に批判できる開かれた組織にすることをさらに進めていく必要があります。最近、会員のなかに以上の視点を持ってホタルの保護・研究活動を進めておられる方々が大変多くなり、自然保護教育にも関心が高まっていることは嬉しい傾向です。この点で次回の大会が長崎市に決定されたのは大変時宜を得ていると思います。ホタル研究会が更に発展しますことを願いつつ、思いつくまま会に対する個人的雑感を記してみました。皆様のご意見を頂ければ幸いです。それでは皆様元気で長崎市で再会致しましょう。（文責 大場）